

# 第 I 章 研究の目的と概要

渡邊 章(教育研修情報部)

## 1. 研究の目的

障害のある子どもの教育に関する情報提供体制の整備は重要な課題である。独立行政法人国立特殊教育総合研究所（以下、研究所という）では、これまでに「障害のある子どもの教育の広場」の開設など、研究所 Web サイトからの情報発信の充実に努めてきた。今後、より一層の情報提供内容の充実を図るためには、教育委員会、教育センター及び特殊教育センター、盲・聾・養護学校を始めとする関係機関のニーズに対応した情報コンテンツの充実及びその効果的な普及を行っていく必要がある。このような認識から、本研究では、これらの関係機関の Web サイトによる情報提供の状況及び情報コンテンツへのニーズに関する調査を行い、それを踏まえて研究所 Web サイトによる情報提供内容の充実を図るとともに、今後の情報提供システムの在り方や e ラーニングの活用の在り方について、関連機関との連携の下に検討することを目的としている。

## 2. 研究の経緯

本調査研究は、平成 16 年度に実施されたプロジェクト研究「障害のある児童生徒等の教育の総合的情報提供体制の構築と活用に関する実際研究」の成果を踏まえて、さらに継続的な取組が必要と考えられる課題について検討を行うために、平成 17 年度・18 年度の 2 カ年計画で実施するものである。

## 3. 研究の概要

本調査研究には、大きく 3 つの柱がある。

第 1 は、障害のある児童生徒等の教育に関するコンテンツの充実・普及方策の検討である。これは、研究所 Web サイトをはじめとして、教育関係機関の Web サイトからの障害のある児童生徒等の教育に関する情報をいかに充実させ、普及させていくかということについて検討するものである。

第 2 は、Web アクセシビリティの向上に関する検討である。教育関係機関の Web サイトのアクセシビリティの向上は重要な課題である。そのため、教育関係機関の Web サイトには、アクセシビリティに関してどのような課題があり、どのような手だてが必要であるかを検討する。

第 3 は、専門的知識の普及方策としての e ラーニングの活用の在り方の検討である。近年、さまざまな領域で e ラーニングの活用が行われるようになってきている。本調査研究では、障害のある子どもの教育の領域で、e ラーニングをどのように活用することが有効か、活用にあたってどのような配慮が必要かということについて、明らかにしようとするものである。

#### 4. 平成 17 年度実施内容

平成 17 年度に実施した取組の内容は、以下に示すとおりである。

7 月	研究協議会
8 月	e ラーニングを利用したモデル講習会の実施（於：福岡教育大学）
9 月	アクセシビリティ調査の実施
10 月	盲ろうモデル講習会の実施（於：国立特殊教育総合研究所）
10 月～11 月	Web による情報提供に関する予備調査
11 月～2 月	盲ろうモデル講習会のフォローアップ
1 月	Web による情報提供に関する調査
1 月～2 月	中間報告書の編集作業
2 月～3 月	Web サイトによる情報提供に関する訪問調査（予定）
3 月	中間報告書の刊行

#### 5. 中間報告書の内容

本報告書は、2 カ年計画の中間報告として、平成 17 年度に実施した取組について報告する。

第 II 章では、障害のある児童生徒等の教育に関するコンテンツの充実・普及方策の検討の取組について報告している。

第 III 章では、Web アクセシビリティの向上に関する検討について報告している。

第 IV 章、第 V 章では、e ラーニングの活用の在り方の検討について報告している。

巻末には、本調査研究に関連した研究発表等の資料について、参考資料として掲載している。